

2022（令和4）年3月13日（日曜日）に開催された外国籍県民かながわ会議（第11期・第10回）の議事録は次のとおり。

1 開会

（事務局）

- ・ 会議のルール、会議の録音、欠席者及び配付資料等について説明した。

<前回の振り返り、本日の流れについて>

（事務局）※委員長が欠席だったため、事務局が代わりに説明。

- ・ 前回の会議では、オープン会議の御意見を受けて、現在の提言案をどう改善していくべきか、委員同士で議論していただいた。
- ・ この議論を踏まえて、部会内で協議を進めていただき、各委員の提言案を改めて見直していただいたかと思う。
- ・ 本日は、懇話会委員の皆様にご参加いただき、専門的な観点から様々な御意見をいただけるものと期待している。
- ・ 本日は、ご意見をもち、皆様の提言を実現性の高い、よりよい提言にさせていただけたらと考えている。
- ・ 秋に向けて提言書をまとめていく必要があるため、全体会議では、提言書のまとめ方についても議論したい。

2 議題

(1) 部会別協議（懇話会委員からの意見聴取）

【情報部会】

部会を前半と後半に分けて、懇話会委員から意見聴取を行った。

<部会前半>

（佐々木 聖壘 部会長）

- ・ ICTツールを活用した外国籍県民への情報提供の提言案について、説明をお願いしたい。

（ケゼンガ エドワード ムインビ 委員）

- ・ 今回の提言案には、3つの要素がある。1つ目は災害時の多言語電子資料による情報提供、2つ目が動画による情報提供である。そして

オープン会議の御意見に基づき、県で提供している紙の情報を電子化して多くの人に共有できるように提供する、という要素を追加した。

- ・ 災害時の情報提供が充実している自治体もあれば、そうではないところもある。県主導で多言語資料が提供できていない自治体に既存の情報と共有し、多くの外国籍県民に情報が届くようにしてほしい。
- ・ また、県と各市町村で実施している定期的な会議で、災害情報の活用に関する意見交換を行っていただき、各自治体が効果的に既存の情報を活用できるような仕組みを作してほしい。

(バックマン ジェイサン マシュー 委員)

- ・ 新しい情報をウェブサイトに掲載したり動画にしてアップロードすれば、皆がすぐにシェアできる。ただ、ウェブサイトの掲載や動画の作成を誰がどのように実施するかは少々悩んでいる。

(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ 県が各市町村をサポートして、情報提供を増やすという働きかけはよいと思う。災害時の多言語資料は、CLAIR が作ったどこでも使えるフォーマットを参考にしたり、リンクを張ったりできると思う。
- ・ ただ、市町村毎に地名などを変えていかなければいけない資料もあるので、その組合せをどうしていくかが1つ課題になるかと思う。
- ・ 動画作成や「こんにちは神奈川」の電子化もよい。ただ、インターネットで見られればよいかという、どのサイトに掲載されているか分からない人は結局見ない。掲載場所を伝えるための何かが必要になる。
- ・ 情報には、主体的に取りに行くものと向こうから届くものの2種類がある。メールマガジンなどを活用して情報を届けば、周知されやすくなると思う。もちろんSNSなどの活用もよいと思う。

(石川 苑子 懇話会委員)

- ・ 既存のリソース活用はよいアイデアだと思う。一方で、その情報をどうやって届けるかは、やはり課題になってくると感じている。

(柳 晴実 懇話会委員)

- ・ すまいサポートセンターの情報は、口コミによる拡散が1番多い。口コミはスピードが速く、相談につながる可能性も高い。また、外国人コミュニティの中心人物から情報を拡散することも有効だと思う。

(佐々木 聖壘 部会長)

- ・ 外国籍県民かながわ会議の発信力向上のための環境整備の提言案について説明する。県民会議は20年以上の歴史の中で様々な提言を行い、成功した施策もある。この実績をより多くの県民に知ってほしい。
- ・ また、次期の委員が集まりやすくなるような環境整備をしたい。各委員の提言案の内容を充実させるために、色々な勉強会を開きたい。
- ・ 委員就任当初は何をすればよいのか分からないので、事務局のフォローが必要である。事務局である県の国際課に1年間のスケジュールを作ってもらい、それに沿って行動することも考えられる。
- ・ すまいサポートセンター、JICA横浜、かながわ国際交流財団などと連携した取組ができれば、会議の発信力が向上すると思う。

(柳 晴実 懇話会委員)

- ・ 県民会議をどれくらい周知してもらえるかは、今後会議を続けていくうえで、すごく大事なところ。会議の発足当初は、国際課の職員が色々な民族団体、NPO、NGOをまわって声かけしたと聞いている。人と人のつながりでどう呼び掛けていくのかという視点も必要である。
- ・ 県民会議に参加してよかったこと、勉強になった点など、メリットをどう作っていくかという視点も大事。県民会議で提言を出すことが、県の活動にどうつながっていくのかを、委員自身が実感できるかどうか。
- ・ 県内の外国人の現状を把握し、足りない部分をどう提言にするか、ステップを上げるような感じで会議ができればよいと思う。懇話会もその活動に助言しながら、一緒に勉強していけるとすごくよい。

(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ 提言案のアイデアはよいと思う。ただ、具体的に実施することを考えたとき、本日のような日曜日に見学会や学習会を頻繁にできるかという、課題がある。恐らく事務局とも色々と調整が必要になる。
- ・ 川崎市の会議でも、勉強会をやっていた時期がある。ただ、それもよく参加できる人と、なかなか参加できない人がいたと思う。勉強会であれば、オンラインを積極的に使ったら集まりやすいかもしれない。

(石川 苑子 懇話会委員)

- ・ 周知の観点で言うと、オープン会議を増やすというのも1つの方法に

なると思う。JICA横浜との連携について、例えばオープン会議のよ
うなものを一緒に実施するといった可能性はあると思う。

(佐々木 聖壘 部会長)

- ・ 補足だが、任期が2年半で2期連続しかできない。新任の委員はゼロから頑張らなければいけないので、事務局にはつなぎ役を担ってほしい。
- ・ 続いて、地域住民との交流促進のための町内会活用案の提言について、説明をお願いしたい。

(楊 芳 委員)

- ・ 私が住んでいる横浜市中区は、外国籍の方が多い。過去に自治会の役員をしたことがあるが、外国人に慣れておりサポートの意欲が高い。ぜひ自治会の力を借りたいと思い、この提言案を作成した。
- ・ ICTツールは、伝えられる情報量や情報更新のスピードに関しては、非常に優位に立てるものだと思う。一方で、いざという時は、隣の家を直接訪問した方が絶対早い。
- ・ これまで懇話会委員やオープン会議の参加者から、自治会は各市町村の団体であり、県は各市町村に協力をお願いする形になるので、依頼内容をなるべく細かく書いた方がよいという御意見をいただいた。
- ・ また、県内の全ての自治会が熱心で外国人に慣れていないわけではないため、啓蒙教育的なことも必要ではないかという御意見もいただいた。
- ・ この2点を中心に今回の提言案に盛り込んだが、提言する以上は実現してほしいので、実効性を高めるための御意見があれば伺いたい。

(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ 中区は例外的だと思う。外国人コミュニティと付き合いがない自治会も多いと思うので、それを前提に考えた方がよいと思った。
- ・ そのうえで、大きく2つの方向性が考えられる。1つは町内会を周知するため、全体的に啓蒙すること。もう1つは中区のようなところをモデルケースとして具体的な取組を行い、PRすることである。

(楊 芳 委員)

- ・ これまでも同じような御意見をいただいて、悩んでいた。中区をモデルケースにしてというのは、非常によいヒントをいただいた気がする。

いしかわ そのこ こんわかいいいん
(石川 苑子 懇話会委員)

- ・ 私は藤沢市に住んでいるが、町内会に入っていない。日本人でもそういう状況が多いのが実情。一方で、一人暮らしの高齢者も多く、隣に住む外国人が頼りになる人だったといったケースはあると思う。
- ・ そういつながりが大事で、町内会に属すべきかは分からないが、そういうことを皆に知っていただくための取組もあり得ると思う。

ささき せいしやう ぶかいちやう
(佐々木 聖壘 部会長)

- ・ 続いて、外国につながるこどもと保護者のための小学校入学前の説明会の実施の提言について、説明をお願いしたい。

いいん
(リディア ワンタ 委員)

- ・ 私には2人子どもがいる。日本に来た当時、学校や行事の準備などが分からず苦労した。断食への対応や、男女と一緒に体操着に着替えることについて説明がなかったので、私たちにとって不適切だと感じた。
- ・ 横浜市は、情報提供や多言語支援センターの説明などがしっかりしているが、大和市に住む知人には、情報が伝わっていなかった。

いいん
(ティンキーコ ミリアム 委員)

- ・ 入学前に通訳者付きの説明会を実施してほしい。先輩ママの経験談の説明や質疑応答の時間を設けたり、持ち物の見本を展示してほしい。
- ・ 川崎市では入学前説明会を実施していて、よい内容である。同様の取組を県レベルで実施してほしい。また、広報にも力を入れてほしい。
- ・ 相模原市、綾瀬市、座間市、愛川町など外国人の支援が行き届いていないところでも実施してほしい。

いしかわ そのこ こんわかいいいん
(石川 苑子 懇話会委員)

- ・ 入学前の説明会は非常に大事。愛川町は外国籍県民が多い地域だが小学校が保護者向けに説明会を行っている。本来は、教育委員会などが取りまとめて町全体に呼び掛けて実施するのがよいと思う。

かかわざき ちかこ こんわかいいいん
(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ 提言としてまとめる際、取組の周知や働きかけは県が行うとしても、実際に説明会を開くのは各市町村になると思うので、県から市町村に働きかけてほしいなど、文章の作り方には工夫が必要だと思う。

さ さ き せいしょう ぶ かいちょう
(佐々木 聖壘 部会長)

- 続いて、外国人ボランティアを増やすプロジェクトの提言について、説明をお願いしたい。

なかだ シリワン いいん
(仲田 シリワン 委員)

- 色々な場所に日本人のボランティアはいるが、外国人のボランティアがあまりいない。例えば学校で個人面談をする場合、国際交流センターや教育委員会に連絡して、何週間もかけて通訳者を探している。
- 市役所や区役所に外国人ボランティアの部署を作れば、短い時間で対応できる。県の人事課がこのプロジェクトを担当できるのではないか。
- 例えば学校内とか区役所のボランティアリストをデータベース化して、各市町村で相互に参照できたら、更に短時間で対応できるようになる。

かしわざき ち か こ こんわかいいいん
(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- 川崎区で翻訳通訳バンクという取組を区レベルでやっていて、それに近いイメージ。どのように運用しているか調べると、参考になると思う。
- データベース化はよいと思うが、個人情報に誰でもアクセスできると問題なので、どういう仕組みにするかは更に検討した方がよいと思う。

ぶ かいこうはん
<部会後半>

さ さ き せいしょう ぶ かいちょう
(佐々木 聖壘 部会長)

- 後半は提言案の後ろから順番に進める。外国人ボランティアを増やすプロジェクトの提言について、説明をお願いしたい。

なかだ シリワン いいん
(仲田 シリワン 委員)

- 外国人ボランティアが少ない。国際交流センターや国際交流ラウンジではボランティア登録できるが、困っている外国人は学校や区役所に連絡することが多い。役所の中にボランティアグループがあるとよい。
- 学校内にも外国人の子どもが多い。もし学校内に外国人ボランティアの仕組みがあれば、問題が発生したときにすぐに助けられる。
- このプロジェクトで、県全体の外国人ボランティアが増えると思う。

まるやま い つ き こんわかいいいん
(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- 共感する。そういうシステムが必要で、提言案のとおり、県にボランティア活動を支援する予算を立ててほしいという部分が1番である。

- 子どもが卒業した後で、学校をよく知っている保護者にどうやってボランティアをやってもらえるか、そのシステムも必要だと思った。

(柳 晴実 懇話会委員)

- システムのことも予算的にも必要だと思う。必要としている人たちがたくさんいるのに、学校内だけではなく、役所の対応時など、通訳と一緒にいけるシステムがとても少ないと感じている。
- すまいサポートセンターでも実施しているが、どれぐらい数をこなせているかと言うと、まだまだ足りないと感じている。
- 外国籍の人が、全員ボランティアをできる状況にあるかという、そうではない。生活費を稼ぐだけで精一杯という人の方が、どちらかという人が多い。その現状をベースに考えなければいけない。
- 留学生はターゲットになりうる。多くの大学でボランティア活動を推奨していて、実際に生活している人の現状をボランティアで知るとは大事。大学としても、考えてもらえる可能性があると思う。
- ボランティアをできる人たちの層に、県としてどのように働きかけるかといった視点を提言に盛り込むとよい。ボランティアを募る方法として、ターゲットをどこにするかといった視点もあるとよいと思った。

(仲田 シリワン 委員)

- 何回か学校の面談で通訳ボランティアをしたが、交通費が2,000円かかったのに、謝礼が3,000円だった。ボランティアとはいえ、3時間かかり、交通費も自腹では誰もやりたがらないので、予算が必要だと思う。

(佐々木 聖壘 部会長)

- 続いて、外国につながる子どもと保護者のための小学校入学前の説明会の実施の提言について、説明をお願いしたい。

(リディア ワンタ 委員)

- 横浜市の南吉田小学校では、地域に住む外国人が多いため、しっかりと説明がある。しかし他の学校では、日本語でしか説明がないので、学校生活と行事について外国人の保護者に伝わらないと思った。
- 入学前の説明会を、通訳付きで実施してほしい。来日したばかりで文化や宗教も異なると、保護者はなかなか理解できない。

(ティンキーコ ミリアム 委員)

- ・ 情報がしっかり行き渡るように、広報にも力を入れていただきたい。

(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- ・ 現状は説明会はあるが、内容が十分ではないということか。

(ティンキーコ ミリアム 委員)

- ・ 横浜市や川崎市では実施している。相模原市、綾瀬市、愛川町など、支援が行き届いていないところでも実施してほしいと思っている。

(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- ・ 県全体に取組を広げたいという趣旨だと理解した。
- ・ 説明会を開催しても、保護者が働いている時間と重なってしまうと参加できない。オンライン開催や動画の作成も1つの方法だと思う。
- ・ 学校入学前や、日本に来たばかりの外国人の保護者が必要な情報は、日本で一人暮らしをするときに必要な情報とは違う。そういう情報の提供方法について、プラットフォームも含めて考えていく必要がある。

(柳 晴実 懇話会委員)

- ・ 外国人の保護者にとって説明会は重要なので、きちんと分かるように、全ての学校で実施してほしいということが、提言の趣旨だと思う。
- ・ 学校にとっても、説明会を実施する利点は絶対あると思う。学校側が外国人の子どもを持つ保護者の文化や生活を理解して、逆にそれを周りの日本人の保護者に説明していかないといけない。
- ・ 学校側がそうした役目を果たしていくには、説明会を実施したうえで、外国人の文化にマッチしない部分があれば、何がどう問題なのかヒアリングをする。日本人の保護者に説明するうえで、学校側にとっても必要で有意義な取組であるという視点を、提言の中に入れていただこうと思う。

(仲田 シリワン 委員)

- ・ 説明会については、PRの仕方にも問題がある。外国人の保護者が説明会の存在を知ったときには終わっていた、ということが何度もある。

(リディア ワンタ 委員)

- ・ はがきが来ても、全部日本語で書いてあると外国人はその内容を理解できない。日本語だけではなく、英語や中国語もあると助かると思う。

さ さ き せいしょう ぶ かいちょう
(佐々木 聖壘 部会長)

- ・ 入学前説明会のはがきは戸籍課から発送しており、予め印字された状態で届く。教育委員会には、記載内容の変更や削除はNGとされている。学齢簿と照合して誤りがなければ、そのまま発送する。
- ・ 外国語対応するならば、教育委員会側の対応が必要になるが、難しいかもしれない。また、学齢簿には日本人の情報しか載っていない。区役所では、どの学校に何人の外国人がいるかといったことは分からない。

りゅう ちよんしる こんわかいいいん
(柳 晴実 懇話会委員)

- ・ 外国籍の子どもたちにははがきが届いていないのではないかと。だからお知らせがあること自体を知らない外国人も多い。私は昔大阪にいたが、大阪では要望して、外国籍の児童にもお知らせが届くようになった。
- ・ 例えば保育園や幼稚園など、小学校入学前の段階でお知らせするシステムの検討について提言に盛り込むことも考えられると思う。

さ さ き せいしょう ぶ かいちょう
(佐々木 聖壘 部会長)

- ・ 外国籍の子どもは保護者には、まず区役所で青い紙(外国人就学申請書)を渡す。その紙を持って学校に行き、校長から許可の印鑑をもらい、更にその紙を区役所に提出して、学校に通えることになる。
- ・ 区役所は、その学校と連絡を取り合って、何月何日からこういう名前の外国籍の子どもが通い始めるといった情報を共有している。入学日や入学前の準備については、学校から直接連絡していると思う。

まるやま い つ き こんわかいいいん
(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- ・ 各自が連携して、色々な方面から重ねて情報を届ける気持ちが大切。教育委員会が大変なのは分かるが、1番動いてほしいことだと思う。
- ・ 私の子どもは今年中学校を卒業した。コロナ禍で、学校にはホームページを更新してほしいと強く感じた。外国人、日本人関係なく、教育委員会が各学校のホームページを整える取組を進めてほしい。
- ・ 紙の時代ではなく、オンラインは多言語化に対応しやすい。皆に情報が行き渡れば、保護者も子どもたちも学校に協力しやすくなる。

さ さ き せいしょう ぶ かいちょう
(佐々木 聖壘 部会長)

- ・ 続いて、地域住民との交流促進のための町内会活用案の提言について、説明をお願いしたい。

よう ほう いいん
(楊 芳 委員)

- ・ 横浜市中区で町内会の役員を務めた際に、外国人を支援したいという熱心な方が多かったため、自治会の力を借りたい。ただ、外国籍の方に不慣れな自治会もあるため、啓蒙教育などが課題と考えている。

りゅ ちよんしる こんわかいいいん
(柳 晴実 懇話会委員)

- ・ 現在、すまいサポートセンターで、県住宅供給公社との話し合いを進めている。外国人の住人が増える中で、言葉が通じなかったり生活文化が違うことで色々な課題やトラブルが生じている。
- ・ 県住宅供給公社とは、地域の同じ団地の住人同士、例えば自治会のメンバーの交流、生活ルールの周知、コミュニケーションをどのように進めていくか、一緒に検討していこうという話をしている。
- ・ 中区だと、県としてモデルケースにできない可能性があるが、県住宅供給公社の取組であれば、モデルケースにできるかもしれない。現状は検討段階で、決定したわけではないので、改めてお知らせする。
- ・ 例えば、県内の各自治会の中に外国籍の役員が何人ぐらいいるのか、そういう集計を県で行うのは難しいのか。

じむきょく
(事務局)

- ・ 市町村別外国人数は調査しているが、自治会レベルの把握は難しい。

りゅ ちよんしる こんわかいいいん
(柳 晴実 懇話会委員)

- ・ 例えば、今までの自治会の活動で、外国籍の人が役員をやったことがあるかアンケートをとるなど、そういった状況把握ができるとよい。
- ・ 自治会の役員を経験したことがある外国人の方にヒアリングに行き、外国人側が思ったことと、同じ自治会の日本人側が思ったことが見えるようになると、変化がイメージとして沸くのではないかと思う。

よう ほう いいん
(楊 芳 委員)

- ・ 自治会の役員は、毎回市町村に報告するような制度になっているか。

さ さ き せいしやう ぶかいちやう
(佐々木 聖壘 部長)

- ・ 自治会長が変わった際に区の総務課に必ず連絡が来る。ただ、役員の変更までは恐らく報告していない。総務課で年度末に役員の名簿をもらっているが、いつも更新しているわけではない。

よう ほう いいん
(楊 芳 委員)

- ・ 私^{わたし}がいた自治会^{じちかい}も数十年^{すうじゅうねんぶん}分の名簿^{めいぼ}があるが、ボールペン^かで書いてあり、全て紙^{かみ}である。なかなかそこから探す^{さが}というのは難^{むずか}しい。
- ・ 県住宅^{けんじゅうたく}供給^{ききょう}公社^{こうしゃ}の話^{はなし}は、県^{けん}が関係^{かんけい}するプロジェクト^{プロジェクト}なので、モデルケース^{モデルケース}としてぜひ提言^{ていげん}に盛り込み^{もこ}たい。いつ頃^{ごろ}から開始^{かいし}する予定^{よてい}か。

りゅう ちよんしる こんわかいいいん
(柳 晴実 懇話会委員)

- ・ 令和^{れいわ}4年度^{ねんどちゅう}中に開始^{かいし}したいと話^{はな}している。こういう計画^{けいかく}が動き出^{うご}してあるという範囲^{はんい}でしか書^かけないかもしれないが、一例^{いちれい}にはなると思^{おも}う。

まるやま い つ き こんわかいいいん
(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- ・ 町内会^{ちやうないかい}という^と年上^{としうえ}の人^{ひと}がたくさんいるイメージ^{イメージ}だが、子ども会^こなどを接点^{かい}にすると、親子^{おやこ}で身近^{みぢか}に、地域^{ちいき}の芋ほり^{いも}とか七夕^{たなばた}まつりとかいろいろなイベント^{イベント}があるので、よいかと思^{おも}った。

さ さ き せいしやう ぶかいちやう
(佐々木 聖壘 部会長)

- ・ ICT^{かつよう}ツール^がを活用^{がいこくせきけんみん}した外国籍^{じやうほうていきやう}県民^{ていげんあん}への情報^{せいめい}提供^{ねが}の提言^{ていげん}案^{あん}について、説明^{せつめい}をお願い^{ねが}したい。

(エドワード ケゼンガア ムインビ 委員)

- ・ この提言^{ていげん}案^{あん}は3つの要素^{ようそ}があり、1つ目^めは災害^{さいがい}時^じの情報^{じやうほう}提供^{ていきやう}に關すること、2つ目^めは動画^めによる情報^{じやうほう}提供^{ていきやう}、3つ目^めは紙^{かみ}の情報^{じやうほう}の電子化^{でんしか}。
- ・ 多言語^{たげん}情報^{じやうほう}の提供^{ていきやう}にマンパワー^{マンパワー}をかけられない自治体^{じちたい}もあるため、ICT^{ICT}ツール^{ツール}や既存^{きぞん}の情報^{じやうほう}の活用^{かつよう}が有効^{ゆうこう}。このような仕組^{しく}みを作^{つく}れば、災害^{さいがい}時^じに困^{こま}っている外国人^{がいこくじん}に、情報^{じやうほう}が行^ゆき届^{とど}くようになると思^{おも}う。
- ・ 動画^{どうが}に關しては、県^{けん}の「かなチャンTV」^{かなチャンTV}を活用^{かつよう}して、より多く^{おほ}の人^{ひと}たちに情報^{じやうほう}提供^{ていきやう}ができるような仕組^{しく}みが必要^{ひつよう}だと考^{かんが}えている。

まるやま い つ き こんわかいいいん
(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- ・ 「みんな」^{みんな}という団体^{だんたい}で、災害^{さいがい}時^じに情報^{じやうほう}弱者^{じやくしや}になる外国人^{がいこくじん}のことを含^{ふく}めて検^{けん}討^{とう}している。ぜひ皆^{みな}さんの声^{こえ}も反^{はん}映^{えい}していきたい。

じんけん きやういくぶかい
【人権・教育部会】

ぶかい ぜんはん こうはん わ こんわかいいいん いけんちやうしゆ おこな
部会^{ぶかい}を前半^{ぜんはん}と後半^{こうはん}に分^わけて、懇話会^{こんわかい}委員^{いいん}から意見^{いけん}聴取^{ちやうしゆ}を行^{おこな}った。

ぶかいぜんはん
<部会前半>

は さんう ぶ かいちょう
(河 相宇 部会長)

- ・ 人権・教育部会では、6つのテーマで話を進めている。
- ・ 人権関係は、高齢者の外国籍県民が安心して生活できるサポート体制、子供の権利に関する条例制定、外国人の地方参政権導入の3つ。
- ・ 教育関係は、日本語教育を含む教育支援、外国人起業家支援、県立インターナショナル・コースの導入・多言語サークルの導入の3つ。
- ・ 高齢者の外国籍県民が安心して生活できるサポート体制の構築の提言案について、簡単に説明をお願いしたい。

すずき みゆき やまもと いいん
(鈴木 クリスティーナ 美幸 山本 委員)

- ・ 介護保険制度でこういったサービスを受けられるか、外国籍の方々が、高齢になる前の段階から知っておく必要があると思う。
- ・ 高齢化が進むと、本人だけではなく家族の負担が大きくなる。多文化高齢社会ネットワークかながわで実態調査がスタートしているが、本格的な調査結果は出るのは3年後であり、あまりにも長く感じる。
- ・ まずはリーフレット作成などから着手した方がよい。高齢になると日本語で話すのが面倒になる方も多いため、サポート体制も必要になる。

いいん
(ファム ルー アンジー 委員)

- ・ 特定技能の在留資格で介護施設で働く外国人が増えているので、提言の中に、介護現場に特定技能の外国人を雇うことで、言葉の問題の解決につなげるといった内容を加えてもよいのではないかと思った。

すずき みゆき やまもと いいん
(鈴木 クリスティーナ 美幸 山本 委員)

- ・ 介護の仕事をしている人たちは通訳ではないと思う。介護の現場は非常に大変なのに、そこに通訳を押し付けるのは違うと思う。別の事業として、通訳を育成しながら対応することが必要になる。

いいん
(ファム ルー アンジー 委員)

- ・ 通訳育成には時間が必要。特定技能の外国人が多いので、例えばベトナム人の高齢者の介護を同じベトナム人が行えば、通訳が不要になる。

たかはし せいじゅ こんわかい いいん
(高橋 清樹 懇話会委員)

- ・ 特定技能の方を活用するという視点も大事だが、この提言の趣旨は、外国籍県民が正しい情報を多言語で得られるようにすることだと思う。

- 何から着手して、どういう主体と協議していくかといった、実効性を高めるための具体策がもう少しあるとよいと思う。

(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- 川崎市の教室で日本語を教えていた時、言葉を勉強すること以上に、そこが外国人の方の居場所になっていた。そういった居場所はあるか。
- 新しい時代への対応も必要で、パソコンの使い方など、居場所みないなところがあったら、外国人同士で教え合うこともできるかと思った。

(鈴木 クリスティーナ 美幸 山本 委員)

- 川崎市ふれあい館は、積極的に取り組んでいる。どのコミュニティも受け入れながら、子どもからお年寄りまでサポートしている。しかし、ブラジル人がそこに集まって情報を得ているといった話はない。
- いちょう団地では、ベトナム人、中国人が集まって日本語を勉強したり、色々とお話をする場があったが、コロナ禍で集まれなくなった。
- 居場所づくりについては、家から出られない、集まらない中で、どのようなサポートができるのか、考えなくてはいけないと思った。

(高橋 清樹 懇話会委員)

- 情報の多言語化を進める際は、情報のプラットフォーム化が必要。国の制度なら日本全体で使えるが、県や市町村独自の情報が結構ある。現状は対応に差があり、プラットフォーム化が進まない。
- 介護に関しては、制度的に共通の部分もあるし、市町村毎で違うところもあるため、県主導でプラットフォーム化を検討する必要がある。

(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- 新しい時代への対応の関係で、ネット上でクレジットカードの詐欺被害にあわないためといった視点も必要かと思う。

(河 相宇 部会長)

- 日本語教育を含む教育支援の提言案について、説明をお願いしたい。

(唐 徳龍 委員)

- この提言案は、学校教育と学校教育以外に整理して、提言する予定。学校教育については、公立小中学校向けのオンライン教材の作成、母語による学習支援、在県枠で入学した生徒への支援強化などがある。

- 学校教育以外については、日本語能力検定合格に対する報奨金の支給、地方自治体の日本語教室の体系化などがある。

たかはし せいじゅ こんわかいいいん
(高橋 清樹 懇話会委員)

- 重要な提言である。私たちの団体でも、学校教育の母語支援については教育委員会にお願いしている。
- 県には集住地域と散在地域があって、日本語を学べる国際教室や、「ひまわり」のような施設がある地域と、そうではない地域がある。
- オンラインの日本語教育は、全国的にも議論されている。学習を等しく受けられる機会を確保する意味で、オンラインはうまく活用できる。
- オンラインだけだと人間関係が希薄になってしまう点は注意が必要。子どもの教育は、子どもたち同士で活動することの重要性も高い。

は さんう ぶかいちょう
(河 相宇 部会長)

- 小中学校は市町村が所管している。県に提言しても、小中学校については市町村に言ってくださいという回答になってしまうかどうか。

まるやま い つ き こんわかいいいん
(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- 国際課として、教育委員会とも連携するというイメージでよいか。

じむきょく
(事務局)

- 知事への提言なので、県庁全体で受け止める。当然国際課としても受け止めるが、教育委員会にも受け止めていただき、対応を検討する。

まるやま い つ き こんわかいいいん
(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- 外国籍の保護者は学校の宿題が手伝えないという記載があるが、家だけではなくオンラインも含めて、親子の居場所が必要だと思う。
- 地球学校は教科学習も支援しているが、週1回では少ない。自主的に勉強する習慣をどうつけるかが大切。音読は日本人が見た方がよいとか、オンライン対応の必要性など、私たちの団体でも話している。
- ホームページは学校によって全然違う。横浜市の南吉田小学校は外国人の子どもが60%いて、ホームページは多言語の情報が豊富。
- 学校のホームページをどう作るかは、県の方で考えていただきたい。紙の情報提供には限界があると思うので、オンラインでの提供を充実することと、やさしい日本語の活用が大切だと思う。

(ファム ルー アンジー 委員)

- ・ 小学3年生と、今度入学する次女が2人いる。保護者によるが、最近ではスマートフォンのGoogle翻訳アプリで、カメラを向けると自動で翻訳された言葉が表示されるため、そういう方法を使う人も多い。
- ・ ただ、どれが1番重要な情報かが分からない。これは絶対読んでほしい、支払ってほしいなど、重要度が分かるようにしてほしい。外国人対応に慣れた先生だと、重要な部分に下線を付けてくれる人もいる。

(唐 徳 龍 委員)

- ・ 母語を用いた学習支援の提言案は、あまり現実的ではないかもしれないと悩んでいる。どうすれば実現可能性を高めることができるか。

(高橋 清樹 懇話会委員)

- ・ 実現の難しさはあるが、大事な視点である。小中学校は義務教育でカリキュラムが決まっているため、母語を組み込みにくい。国際教室との交流活動で母語を活かすなど、取組の工夫はできると思う。
- ・ 高校は実現可能性が高い。例えば中学生で日本に来た子どもはある程度母語が定着しているが、幼少期に来た子どもや日本生まれの子は、母語を喪失して、親子のコミュニケーションがどんどん難しくなる。
- ・ 大阪では高校のカリキュラムに位置付け、母語を教える教員を配置し、授業を単位化している。神奈川県でもできなくはない。提言の中に授業としての単位化など、具体案を組み込むとよい。

(丸山 伊津紀 懇話会委員)

- ・ 各提案はどれも重要だと思う。これらの提言が形になって実現するよう、皆さんがそれぞれの役割で頑張っていけたらよいと思う。

<部会後半>

(河 相 宇 部会長)

- ・ 人権・教育部会では6つのテーマで話をしている。後半の最初は、外国人起業家支援に関して、説明をお願いしたい。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- ・ 外国人起業家支援として県ができることが、たくさんあると思う。
- ・ 1つは起業の意思がある外国人に対して、法的なアドバイスや、融資

情報の提供など、外国人向けの支援をしてほしい。県が直接行うのは難しくても、実施可能な機関の紹介などであれば、できると思う。

- 横浜市では、スタートアップビザの制度があるが、利用実績が少ない。ホームページの資料は全部日本語で、積極的に制度を周知して起業化を促進する姿勢が見えない。もう少し県全体で何かできるのではないかな。
- もう1つは、県内の中小企業に対して、外国人材の効率的な活用方法に関する研修を実施してほしい。中小企業は研修を行う資源やノウハウがなく、様々なトラブルや離職率の高さに悩んでいる。

(高橋 清樹 懇話会委員)

- 重要な提言だと思う。私は地域若者サポートステーションで就労支援をしている。外国人材を受け入れる中小企業もあるが、文化摩擦が起きている。今の日本社会は外国人材の受入環境が整っていない。
- 大企業の対応も足りない。大企業を辞めた方も数多く相談に来ている。企業が外国人材を受け入れて、多様性の中で新しいイノベーションを生み出すマインドがないと、日本は世界から取り残されてしまう。
- 県主導で、企業の外国人材受入に向けた取組を進める必要がある。中小企業同友会という組織には、ダイバーシティ委員会が設置されている。そういう組織と連携してアプローチする手法も考えられる。

(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- 起業家支援は必要性が増していく分野。地域に住む外国籍県民の課題と捉えるなら、県で教育を受けて県で就職した人が、新たに起業するとき、その選択肢を支えるような提言になると、より意義深い。
- 起業のアイデアがあっても、制度の壁であったり、仕組みが分からなくて躓くのはもったいない。そこをサポートできるとよいと思う。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- 大学生のとき留学で来て、日本に残り就職したが、色々なことをやろうとしたら法的な壁が多かった。日本人は1円でOKなのに外国人は500万円の資本金が必要、最低2人の日本人をフルタイムで雇用するといった条件がある。就労ビザの問題で、週末起業もできない。
- 在留資格は県で対応できないが、起業したいときの情報提供など、県にできることがあると思う。

いしかわ そのこ こんわかいいいん
(石川 苑子 懇話会委員)

- ・ 介護の技能実習生を多く受け入れている長野県の町で、大学と共同で、日本語教育や受入先事業者向けの研修を検討したことがある。
- ・ 技能実習生は日本語の勉強や慣れない日本での生活など、非常に努力している。彼らと比較すると、受入側と一緒に仕事をしていくという視点に立てていない。日本人側の意識改革が必要である。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- ・ 中小企業の雇用契約は外国人に限らず、色々な意味で多様性への対応が進んでいない。県がノウハウのある専門家などを招いて研修を開催し、中小企業にも何かインセンティブを与えられたらよいと思う。

は さんう ぶかいちょう
(河 相宇 部会長)

- ・ 地方参政権については、外国人側から話をしないと進んでいかない。これからは外国人にも地方参政権が必要という思いで、提言したい。

かしわざき ちかこ こんわかいいいん
(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ 地方参政権は難しい。国の動向とも関係するので、県で実現するのはハードルが高い。アピールとして提言するかどうかの判断だと思う。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ おっしゃるとおり、アピールの要素が強い。

かしわざき ちかこ こんわかいいいん
(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ それは1つの考え方だと思う。別の方向性として、外国人も住民投票に参加できるようにしてほしいという提言も、選択肢になりうる。
- ・ 地方行政への参加という観点なら、各種委員会でも外国籍の委員を増やすべきといった内容にするなど、色々な方向性があると思った。

は さんう ぶかいちょう
(河 相宇 部会長)

- ・ いきなり地方参政権というのは確かにハードルが高いが、住民投票からクリアして、次に地方参政権という順番にした方がよいのか。

かしわざき ちかこ こんわかいいいん
(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ 順番の良し悪しは明言できないが、住民投票は実現している自治体が複数あるが、地方参政権は、現在の政府だと見込みが小さい。

- また、県で決められることではないという回答が出てきてしまうので、そこをどうクリアするかという問題はありますかと思う。

(金 愛蓮 委員)

- 私がこの問題を諦めずにアピールしていこうと言った理由は、外国人が参政権を強く求めており、せつかく県民会議として集まっているので、この提言を出してもいいのではないかと思ったからである。

(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- 地方参政権は、在日コリアンの方々が、同じように暮らしているのになぜ投票できないのかという思いが、実感として大きかったと思う。
- その後、新たに来日した外国人の方々に、優先順位の高いこととして共有されず、意見の集約が難しくなった部分もある。今期の会議の委員が提言するという意見でまとまっているなら、問題ないと思う。

(高橋 清樹 懇話会委員)

- これは、多文化共生の方針がきちんと位置付けられていない、日本人側の問題である。外国人に参政権を付与するという考え方でなく、日本人が外国人と一緒に色々な取組をする中で、一緒に政策も考えていこうという姿勢が大事。
- 神奈川県には、国際政策推進指針はあるが、多文化共生の指針がない。県として、外国籍県民も含めた多文化共生社会を実現するという方針があって、そのうえで実現していくものだと思う。
- 提言していただくのはよいと思うが、日本人側というか、全体の課題としてとらえていくことが求められると思う。懇話会では話しているが、県は国際政策推進にこだわっていて、そこを改善しないといけない。
- 今、ロシア人の子どもに対するいじめやヘイトが出てきている。子どもには大人の考えが反映される。今は社会のムードがウクライナ寄り、ロシアが悪い、ロシア人も悪いみたいな短絡的な思考になっている。
- 県のホームページにヘイトのことは何も書かれていないが、県がリーダーシップをとって、いじめやヘイトの問題を多文化共生の観点から呼びかけるような取組を進めてほしい。

(河 相宇 部会長)

- 県が国際政策推進にこだわっている、特別な理由や背景はあるのか。

かしわざき ち か こ こんわかいいん
(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ 民際外交として、草の根の国際交流や国際協力に力を入れてきた経緯があり、そこから県の国際政策の枠組みが作られた。過去の経緯から、国際化というところから脱せない難しさがあると私は見ている。

いしかわ そのこ こんわかいいん
(石川 苑子 懇話会委員)

- ・ 県民会議と懇話会でもっと意見交換や話題の共有などをすることが、多文化共生という考え方を浸透させていくうえで必要だと思った。
- ・ 地方参政権導入の提言はしてほしいと思うが、多文化共生の視点は国籍関係なく、県民自身が意識できないといけないことだと考える。

かしわざき ち か こ こんわかいいん
(柏崎 千佳子 懇話会委員)

- ・ 子どもの権利に関する条例の提言案に関して、少し内容が重なるものとして、神奈川県子ども・子育て支援推進条例がある。その中に、子どもの人権侵害に対する措置といった内容が入っている。
- ・ 全体としては子育て支援がメインで、子どもの権利そのものが書かれているわけではないが、この提言をしたとき、条例はあるがどうするかという話が出てきそうなので、そこは検討した方がよいかと思った。

たかはし せいじゅ こんわかいいん
(高橋 清樹 懇話会委員)

- ・ この提言案は、外国につながるのある子どもには特化していないというところか。提言案の最後の方に第三者機関と書いてあるが、外国につながる子どもに特化した機関を作ることは必要だと思う。
- ・ また、外国につながる子どもの不就学の問題がある。令和2年の文部科学省の不就学調査では、県内で2,000人という数字が出ている。
- ・ 不就学、ヤングケアラー、DVなど、外国籍の家庭でも様々な問題が起きているが、それがなかなか見えない。第三者機関みたいなもので、きちんと状況を把握する仕組みが必要だと思う。
- ・ インターナショナル・コースについては、既存の教育制度がある中で、インターナショナル・スクールのようなイメージを持っていると、実現が難しいと思う。英語に特化しているところも気になる。
- ・ 高校の中で、継承語保障みたいなところでのあり方とか、多文化共生の取組のあり方とか、教育プログラムの中に何が必要なのかというところで、母語支援の提言案と重なるところが出てくる気がしている。

いしかわ そのこ こんわかいいいん
(石川 苑子 懇話会委員)

- ・ 私^{わたし}もインターナショナル=英語^{えいご}という^{かんが}考え方は、今^{いま}の日本^{にほん}ではできなくなってきたと感じている。英語^{えいご}に特化^{とっか}してインターナショナル・コース^{すす}を進めていくというのは、検討^{けんとう}が必要^{ひつよう}だ^{おも}と思う。
- ・ 継承語^{けいしょうご}と考^{かんが}えるのであれば、英語^{えいご}だけでなく、中国語^{ちゅうごくご}、スペイン語^ご、ポルトガル語^ごなどが求められているので、そこも検討^{けんとう}が必要^{ひつよう}だ^{おも}と思う。

(リー ロイ ジャシュン 委員)

- ・ 部会^{ぶかい}でも議論^{ぎろん}になったことがある。インターナショナル=英語^{えいご}だけではないことは承知^{しょうち}の上^{うえ}で、日本人^{にほんじん}を含めた子ども^こたちにインターナショナル教育^{きょういく}を進めてほしいという趣旨^{しゆし}である。
- ・ 外国^{がいこく}にルーツのある子ども^この親^{おや}も、日本^{にほん}の学校^{がっこう}にもっと充実^{じゅうじつ}した英語教育^{えいごきょういく}を求めているのではないかという背景^{はいけい}に基づく提案^{ていあん}である。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 私^{わたし}たちが外国^{がいこく}につながる人^{ひと}の立場^{たちば}から提言^{ていげん}をするのか、一般^{いっぱん}的な提言^{ていげん}をするのかを整理^{せいり}する必要がある^{ひつよう}だ^{おも}と思う。
- ・ 私^{わたし}は外国人^{がいこくじん}の問題^{もんだい}に特化^{とっか}するものに絞^{しぼ}ってもよいと思っているが、委員^{いいん}同士^{どうし}の意見^{いけん}が合致^{がっち}していないのが実情^{じつじょう}である。

(2) 全体会議 (提言案のまとめ方等に関する意見交換)

- ・ 各部会^{かくぶかい}長^{ちやう}から、協議^{きょうぎ}内容^{ないよう}と懇話会委員^{こんわかいいいん}からいただいた御意見^{ごいけんとう}等を共有^{きやうゆう}した。
- ・ 事務局^{じむきょく}から、資料^{しりょう}3に基づき第10期^{だいじゅう}の最終報告^{さいしゅうほうこく}の構成案^{こうせいあん}について説明^{せつめい}。今期^{こんき}についても、まずは提言書^{ていげんしょ}の構成案^{こうせいあん}を作成^{さくせい}するとともに、次^じ回^{かい}会議^{かいぎ}までに提言書^{ていげんしょ}の副題^{ふくだい}を考^{かんが}えていただきたい旨^{むね}、説明^{せつめい}した。

いじょう
(以上)